



## 主の洗礼 (ルカ 3:15-16,21-22)

家族

9日は、命日が近い中田藤吉神父様始め、亡くなられた田平教会出身聖職者と亡くなられた歴代神父様のためにミサをささげております。ごく最近田川清美神父様が亡くなられたので、合計20名の神父様を追悼することになりました。私たち田平教会家族は、こうした神父様のご指導と、祈りによって支えられています。ミサの中で感謝をささげましょう。

1月4日にはたまたま、たくさんの神父様が田平教会を訪ねてきました。山内清海神父様もおいでになりました。その中で、山内豊神父様からていねいすぎる年始の挨拶を受けて、こちらが恐縮しました。「旧年中は、ひとかたならぬご恩を受けました。今年も命を長らえまして、主任神父様にはまたたいへんお世話になるかと思えます。どうぞ今年もよろしくお願い致します。」私は身の置き場もないほどでした。

福音朗読に入りましょう。イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受ける場面です。もちろん悔い改めが必要だったわけではありません。人が悔い改めて、神に向かって歩き続ける、その先頭に立つために、洗礼を受けられた。そのように考えると良いでしょう。この場面で、私は特に「聖霊の働き」として現れた「鳩の姿」を取り上げたいと思います。

「鳩」が聖書で取り上げられる場面が、旧約聖書の中で一つあります。もしかしたらほかにあるのかも知れませんが、「ああなるほど」と思い当たるのは、ノアの洪水の物語です。洪水の後、ノアが鳩を放つと、「オリーブの葉」をくわえて持ち帰った、そういう場面があります。「鳩は夕方になってノアのもとに帰って来た。見よ、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえていた。ノアは水が地上からひいたことを知った。」(創8・11)

この場面は、タバコの「peace」という銘柄のデザインにもなっているので愛煙家にはよく知られていると思います。ノアの洪水の場面では、二度目に放った鳩が持ち帰ったのは「オリーブの葉」でした。もっと言うと、地上を覆っていた水が引いて、緑の大地が現れたことを匂わせる「しるし」を持ち帰ったのでした。

さて、主の洗礼の場面で現れた鳩は、どのような役割を果たしたのでしょうか。鳩と結びつけられているのは、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(3・22)という声が、天から聞こえたことでした。

天からの声は、御父の声でしょう。鳩はもちろん聖霊のかたどりで。そこに、洗礼を受けたイエスがおられるのですから、御父がご自分の意志を、御子に伝えているということになります。「心に適う」という言い方は、信頼して、委ねているということではないでしょうか。

ですから、この場面での「鳩」は、かつて洪水が引いたことを匂わせた「オリーブの葉」を届けに来たのではなく、「御父のすべての権限

を御子に委ねる」その働きを担っているのだと思います。オリーブに結びつけて言うならば、「オリーブの葉」はオリーブのごく一部に過ぎませんが、イエスの洗礼で御父がもたらしてくれるものは、「オリーブのすべて」オリーブの実とか、オリーブオイルとか、オリーブの木とか、すべてを含むものだったのです。

オリーブは喜びをもたらすしるしでもあるでしょう。オリーブの葉がそうであるなら、洗礼を受けてくださったイエスは御父からの喜びをすべて届けてくださるはずです。主の洗礼の出来事は、これまで「預言」とか、「しるし」しか与えられていなかった神から来る喜びを、余すところなくもたらす出来事だったわけです。

ところで、洗礼を受けた私たちはどうでしょうか。私たちは、周りの人に対して、どのような存在なのでしょう。か。「オリーブの葉」を届ける存在でしょうか。そうであるなら、僅かではあっても神が届けようとする喜びの担い手になっているわけです。しかしそれで十分でしょうか？

きっと、十分とは言えないと思います。私たちは洗礼を受けたにとどまらず、堅信も、その他の秘跡も受けて、神のもたらす喜びを届けるすばらしい器を頂いているはず。そうであるなら、「オリーブの葉」だけではなく、オリーブの実も、届けることができるのではないのでしょうか。

私たちはすでに、人々に届ける神の恵みを受け取る場所に集まっています。祭壇から、イエスは神の恵み、愛の極みである御聖体を分け与えてくださいます。みことばの食卓からも与えてくださいます。これらをそれぞれの生活で人に届けるのが私たちの働きです。

私たちが喜んで届ける人になるなら、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声を聞くことになるでしょう。今週も私たちは人々の中にあって、神のもたらす恵み、喜びを運ぶ「聖霊に導かれた鳩」となれるよう願いましょう。祭壇から食事を頂く私たちは、神と人とを繋ぐかけがえのない存在なのです。